
[た よ り]

常任理事会だより

山川智之

本稿では、前号で報告後平成17年3月17日、4月22日、5月15日、6月26日の4回開催された常任理事会の内容のうち主なものをお伝えするとともに、日本透析医会の主な活動についてご報告します。

1. 通常総会の開催と役員交代

平成17年5月15日日本透析医会通常総会が開催されました。その内容と主な決定事項は本号に掲載のとおりです。この総会で今後の医会運営強化のため、新しい常務理事の就任が承認されました。新任の隈博政先生、太田圭洋先生はいずれも気鋭の経営者で、また隈先生は前福岡県透析医会会長でもあり、医会の活動に深い理解をお持ちの先生です。新しい感覚で日本透析医会に大きな力を与えていただけるものと期待しております。

2. 平成18年度診療報酬改定に対する対応

日本透析医学会の統計調査によれば、2004年末現在の日本の透析患者は248,166人で前年からは10,456人増と、1万人を超す大幅な増加となり、透析患者数は頭打ちになるのではないかと、いう楽観的な期待は潰え、透析患者30万人時代の到来が現実になってきました。国家財政の破綻的状況のため医療費削減への圧力はかつてにもまして強く、その中でも、元厚生大臣が透析医療費を名指しで抑制を公言するなど、透析医療を取り巻く情勢はきわめて厳しいものです。医会としては、平成18年度の診療報酬改定に対する対応を最重点課題とし各方面に折衝中です。全体として厳しい改定になることが確実視される次回の改定ですが、その中で透析医療の質を守ることができる診療報酬の維持を目指していく所存です。

3. 日本財団助成「災害時医療支援船運用計画策定と実施」事業

前回の記事でご報告したように、災害時緊急医療に実効ある支援を実施できる体制を平時より構築しておくことを目標に「災害時医療連絡協議会」が昨年設立されましたが、この趣旨を汲んだ実際の船舶の利用の検証を中心とした活動に、日本財団からの助成が認可され「災害時医療支援船運用計画策定と実施」事業としてすでに進行中です。この事業は日本透析医会が中心となり、日本透析医学会・神戸大学海事科学部・災害医療連絡協議会の協力の下に行われることとなります。神戸

大学の練習船「深江丸」を使って3月9日に行われた医師を乗船者の中心とする検証航海に引き続き、7月19日には、透析室のスタッフ（看護師、臨床工学技士）が乗船する検証航海を行いました。この秋には透析患者に実際に乗船していただく検証航海も予定しています。

4. 第10回保険審査委員懇談会・第6回災害時情報ネットワーク会議

第50回日本透析医学会学術集会開催期間中の6月25日に、標記二つの会議が横浜ランドマークタワー内の会議室で執り行われました。ご多忙中参加していただきました先生方には厚く御礼申し上げます。参加の皆様のご協力により、いずれもきわめて有意義な内容の会議になりました。会議の内容については、どちらも次号（20巻3号）でご報告させていただく予定です。

5. 医会のIT化推進

日本透析医会からのお知らせを電子メールでお送りできるように現在準備を進めています。すでに普遍的なコミュニケーションツールとなったインターネットを使って、医会の会員の皆様方に迅速で正確な情報をお伝えできるよう努力していきます。

お知らせ

第11回日本腹膜透析研究会

日 時：平成17年10月29日（土）～30日（日）AM 9:00～
 会 場：岡山コンベンションセンター（岡山市）
 会 長：太田和夫（太田医学研究所）
 当番幹事：平松 信（岡山済生会総合病院腎臓病センター）
 参加費：9,000円

●メインテーマ

生き方を選択する時代の腹膜透析療法～ハーモニー・オブ・ライフのために～

●主な内容

- ・招請講演 “Peritoneal dialysis in the elderly : Special Issues”
Dimitrios G. Oreopoulos（トロント大学）
- ・特別企画 「日本腹膜透析研究会10年の歩みと将来の夢を語る」
司会：太田和夫（太田医学研究所）
- ・特別講演 I 「なぜ今、東京大学で腹膜透析なのか」
藤田敏郎（東京大学大学院 医学系研究科内科学）
- ・特別講演 II 「CAPD 関連腹膜炎・出口部感染の20年の軌跡と最新情報」
今田聰雄（近畿大学医学部堺病院 腎・透析科）
- ・特別講演（小児 PD 研究会ジョイント）
「CAPD におけるナレッジ・マネジメント ～ベター・クオリティ・オブ・ライフのために～」
酒井 糾（小児腎疾患総合管理研究所）
- ・教育講演 「腹膜の素性と変容」
河上牧夫（東京慈恵会医科大学 病院病理部）
- ・特別文化講演 「藤原備前のおはなし」
藤原 和（備前焼陶芸家）
- ・シンポジウム 「高齢社会における PD 療法の役割」
- ・ワークショップ I 「腹膜の機能低下をいかに防ぐか」
- ・ワークショップ II 「新たな展開を見せる高齢者の腹膜透析」
- ・栄養エキスパートセッション I 「PD 患者の栄養アセスメント」
- ・栄養エキスパートセッション II 「PD 患者の栄養ケアの実際」
- ・スペシャルセッション I 「SMAP」
- ・スペシャルセッション II 「カテーテル出口部ケア」
- ・腹膜病理組織検討会議 「腹膜病理組織分類基準の国際基準」

●問合せ先

〒700-8511 岡山県岡山市伊福町 1-17-18

第11回日本腹膜透析研究会事務局（岡山済生会総合病院腎臓病センター内）

TEL 086-252-2211(代) FAX 086-252-8070

E-mail m-hirama@saiseidr.jp URL <http://apollon.nta.co.jp/jspd2005>